

2023年12月期 第2四半期

# 決算説明資料

オーナンバ株式会社

2023年8月4日

目次

ONAMBA CO.,LTD.

---

I. 決算の概要(PL、BS、CF等)

II. 2023年12月期 第2四半期のトピックス

III. 2023年12月期の経営戦略

IV. 2023年12月期の業績予想

## 〔連結損益〕

(単位:百万円)

科目	2022年第2四半期累計期間		2023年第2四半期累計期間		増減		2023年2月3日 公表した当初 業績予想数値
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
売上高	20,088	100.0%	22,539	100.0%	2,450	12.2%	21,500
売上原価	16,491	82.1%	18,121	80.4%	1,630	9.9%	—
販売費・一般管理費	2,725	13.6%	2,945	13.1%	219	8.1%	—
営業利益	871	4.3%	1,472	6.5%	601	69.0%	1,000
営業外収支	152	0.8%	138	0.6%	△14	△9.3%	—
経常利益	1,024	5.1%	1,611	7.1%	587	57.3%	1,000
親会社株主に帰属する 四半期純利益	757	3.8%	1,119	5.0%	361	47.8%	700

## 《売上高》

半導体などの部品供給の改善に加え、グローバルでの生産体制及び供給体制の強化に取り組んだ結果、サプライチェーンが改善されました。さらには自動車・産業機器用製品などの分野において顧客における需要が想定よりも堅調に推移したことで、売上高は22,539百万円(前年同期比12.2%増)となり前年を上回りました。

## 《利益》

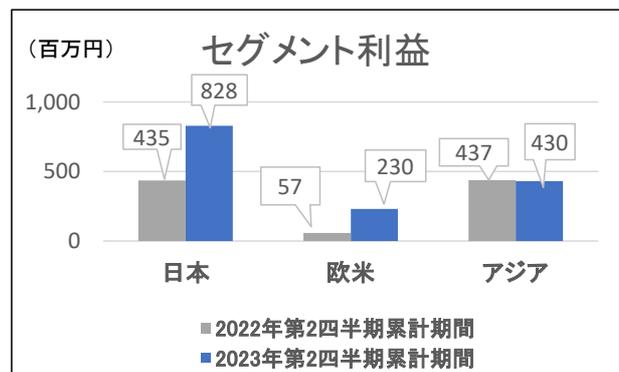
売上高の増加や原価低減活動、さらにはサプライチェーンの改善による物流費の削減や銅価格高騰への対応として、製品価格の改定に継続的に取り組んだ結果、営業利益は1,472百万円(前年同期比69.0%増)、経常利益は1,611百万円(前年同期比57.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,119百万円(前年同期比47.8%増)となり前年を上回りました。

一方で、上期で受注残の解消が進んだことや、欧米での政策金利引き上げ、また各国では供給過多による顧客での在庫調整の動きも出てきており、景気の回復は今後大幅に遅れる懸念があります。

3

## セグメント情報

ONAMBA CO.,LTD.



## 《日本》

半導体などの部品供給の改善に加え、グローバルでの生産体制及び供給体制の強化に取り組んだ結果、サプライチェーンが改善されました。さらには自動車・産業機器用製品などの分野において顧客における需要が想定よりも堅調に推移したことで、売上高は12,668百万円(前年同期比10.1%増)となりました。利益面では、売上高の増加や原価低減活動、さらにはサプライチェーンの改善による物流費の削減、銅価格高騰への対応として、製品価格の改定に継続的に取り組んだ結果、営業利益は828百万円(前年同期比90.0%増)となりました。

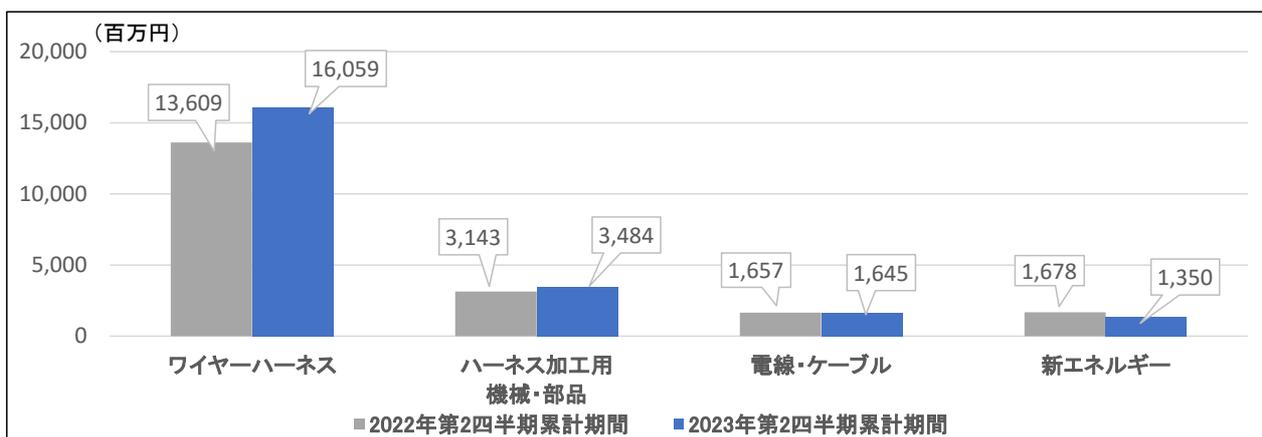
## 《欧米》

半導体不足による影響も緩和されつつあることに加え、北米における自動車産業での需要が復調傾向にあることや、欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことにより、売上高は6,299百万円(前年同期比29.1%増)となりました。利益面では、売上高の増加に加え、サプライチェーンの改善による物流費の削減や、材料調達コストの増加への対応として、製品価格の改定に継続的に取り組んだ結果、営業利益は230百万円(前年同期比304.1%増)となりました。

## 《アジア》

中国市場においてゼロコロナ政策が緩和されたものの、上期で受注残の解消が進んだことに加え、顧客における生産調整などにより、アジアでの売上高は3,571百万円(前年同期比3.4%減)となりました。利益面では、主に売上高の減少に伴い、営業利益は430百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

4



## 《ワイヤーハーネス部門》

グローバルでの生産体制及び供給体制の強化に取り組んだ結果、サプライチェーンが改善されました。さらには自動車・産業機器用製品などの分野において顧客における需要が想定よりも堅調に推移したことにより、売上高16,059百万円(前年同期比18.0%増)となりました。

## 《ハーネス加工用機械・部品部門》

自動車関連の需要の持ち直しにより、売上高3,484百万円(前年同期比10.8%増)となりました。

## 《電線部門》

ほぼ横ばいの売上高1,645百万円(前年同期比0.7%減)となりました。

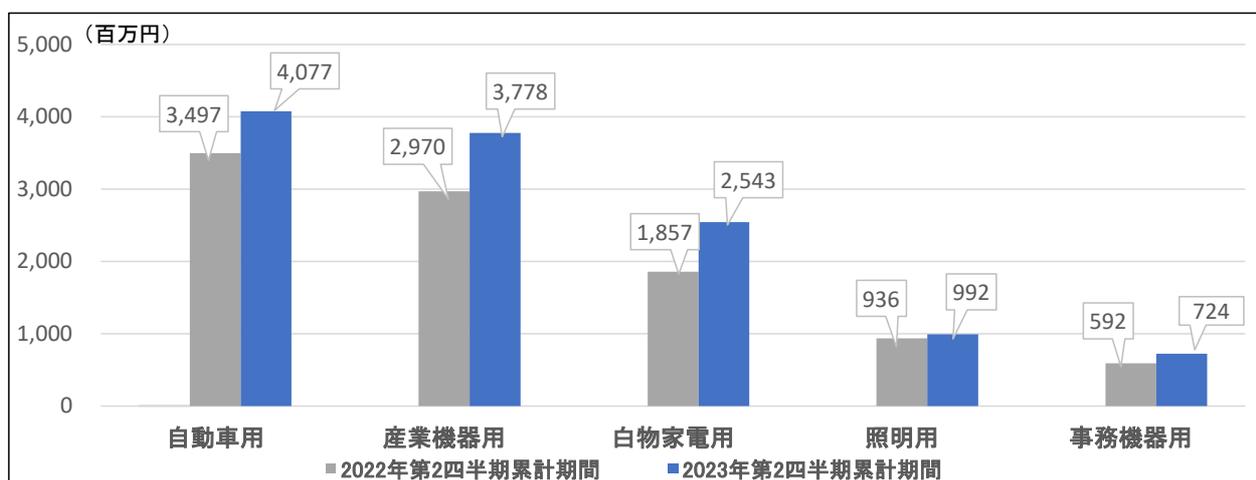
## 《新エネルギー部門》

新エネルギー分野での新規システム開発、環境関連システム製品等の新規開拓などの施策を進めましたが、太陽光発電関連製品の市況の低迷により、売上高1,350百万円(前年同期比19.5%減)となりました。

※売上合計のうち環境関連売上： 23億円

5

# ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



## 《自動車用分野》

自動車用製品の顧客における需要が復調傾向にあり、グローバルでの生産体制及び供給体制の強化に取り組んだ結果、4,077百万円(前年同期比580百万円、16.6%増)となりました。

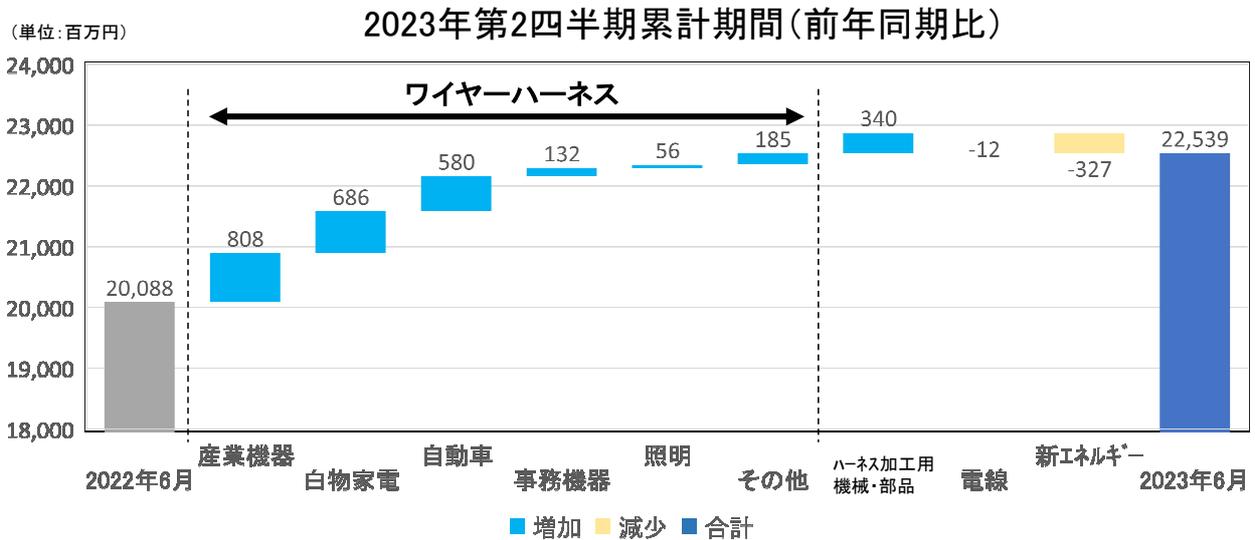
## 《産業機器分野》

産業機器用製品の需要が堅調に推移し、製品開発・新規開拓の促進に取り組んだ結果、3,778百万円(前年同期比808百万円、27.2%増)となりました。

## 《白物家電用分野》

欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことにより2,543百万円(前年同期比686百万円、37.0%増)となりました。

6



【主な増加要因】

- 《産業機器分野》 産業機器用製品の需要が堅調に推移し、製品開発・新規開拓の促進に取り組んだ結果、808百万円増(27.2%)となりました。
- 《白物家電分野》 欧州での空調用ハーネスの需要が好調に推移したことにより686百万円増(37.0%)となりました。
- 《自動車分野》 自動車用製品の顧客における需要が復調傾向にあり、グローバルでの生産体制及び供給体制の強化に取り組んだ結果、580百万円増(16.6%)となりました。

7

固定資産投資

○有形固定資産取得額 328百万円

【主な投資内訳】

《主な生産設備》 146百万円

- ・日本子会社の電線製造設備 54百万円
- ・日本子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備 51百万円
- ・中国子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備 40百万円

8

(単位:百万円)

科 目	2022年12月末		2023年6月末		増 減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
流動資産	27,457	74.5%	27,456	73.0%	0
（現金及び預金）	5,178	14.0%	5,970	15.9%	792
（受取手形、売掛金及び契約資産）	12,363	33.5%	11,110	29.5%	△1,253
（たな卸資産）	9,148	24.8%	9,570	22.7%	422
固定資産	9,417	25.5%	10,160	27.0%	743
（有形固定資産）	6,177	16.8%	6,783	18.0%	606
資産合計	36,874	100.0%	37,617	100.0%	742
負債	15,689	42.5%	14,385	38.2%	△1,303
（支払手形及び買掛金）	7,818	21.2%	7,213	19.2%	△605
（有利子負債）	4,737	12.8%	3,403	9.0%	△1,334
純資産	21,185	57.5%	23,231	61.8%	2,046
負債・純資産合計	36,874	100.0%	37,617	100.0%	742
自己資本	20,589	55.8%	22,571	60.0%	1,982

《総 資 産》

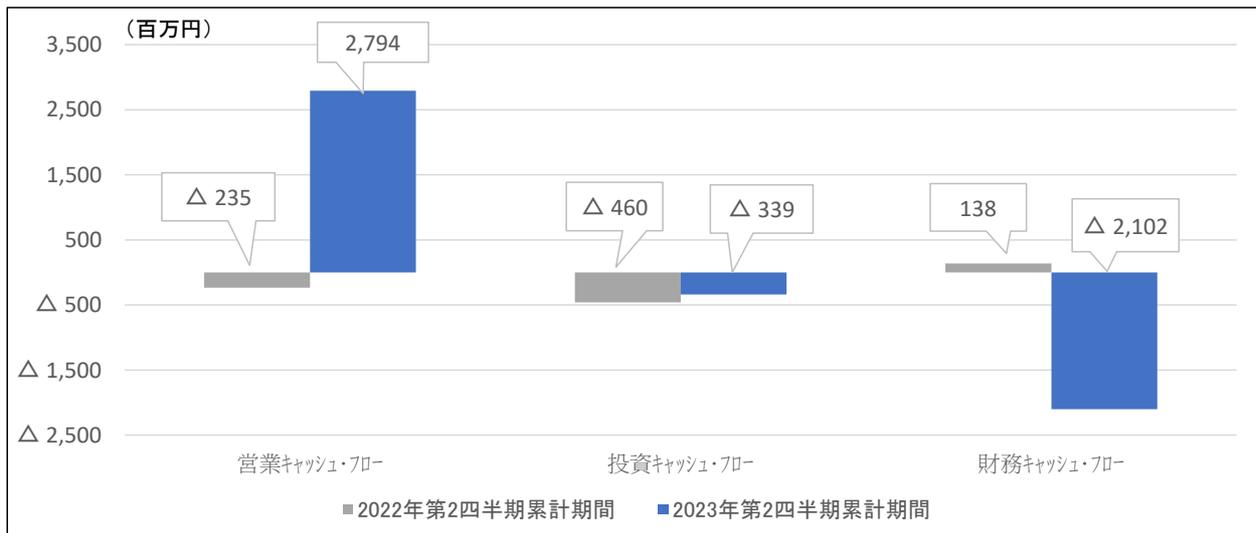
資産合計は、37,617百万円(前期末比742百万円増)となりました。主に、現金及び預金が792百万円、棚卸資産が422百万円、有形固定資産が606百万円及び投資その他の資産が137百万円増加し、受取手形、売掛金及び契約資産が1,253百万円減少いたしました。

《自己資本比率》

自己資本は22,571百万円へ増加となり、自己資本比率は55.8%から60.0%(前期末比4.2%増)となりました。

9

キャッシュ・フローの状況



《営業活動によるキャッシュ・フロー》

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,794百万円の収入(前年同期は235百万円の支出)となりました。主に、税金等調整前四半期純利益1,610百万円、減価償却費425百万円、売上債権の減少1,718百万円及び仕入債務の減少933百万円によるものであります。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

投資活動によるキャッシュ・フローは、339百万円の支出(前年同期は460百万円の支出)となりました。主に、有形固定資産の取得による支出328百万円によるものであります。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,102百万円の支出(前年同期は138百万円の収入)となりました。主に、短期借入金の返済(純額)1,238百万円、長期借入金の調達による収入750百万円及び長期借入金の返済による支出1,337百万円によるものであります。

### 1. 新製品開発・開拓の推進

- ・成長分野(環境/自動車/産業機器/情報通信等)での新規受注で事業拡大
  - 省エネ快適空調制御(E&E Air)システムの事業拡大
  - グローバルでの空調機器用ワイヤーハーネス受注・納入拡大

### 2. ものづくり改革の推進

- ・国内生産拠点の拡充強化(新グループ会社ブライトン等)
- ・品質/生産性向上の為のAI画像認識検査装置導入拡大

### 3. 経営基盤の見直し強化

- ・業務プロセス改革/IT基盤構築のプロジェクト推進
- ・With コロナに対応したリモートワーク、オンライン会議等の積極推進
- ・2024年春移転に向けた、本社移転プロジェクト(ORB24)推進

11

## Ⅲ. 2023年12月期の経営戦略

### 1. 新製品開発・マーケット開拓の促進

- ・環境/自動車/産業機器/情報通信分野等成長分野での深掘りによる事業拡大
- ・成長分野での新規テーマの開拓

### 2. ものづくり改革の推進

- ・グローバル拠点戦略の着実な実践と国内生産拠点の強化
- ・生販技一体となったグローバルでの生産管理力の強化

### 3. 業務基盤の見直し強化

- ・グループ統合の情報基盤構築
- ・リモートワーク、オンライン会議等の積極活用による働き方改革の推進
- ・本社移転プロジェクト推進

12

## 1. 連結業績予想数値

(単位:百万円)

	2023年第2四半期 累計期間(実績)	年間見通し
売上高	22,539	45,000
営業利益	1,472	2,300
経常利益	1,611	2,300
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,119	1,700

## 2. 配当金の状況

	第2四半期末	期末	合計
2022年12月期 (実績)	8円	16円	24円
2023年12月期 (予想)	14円	10円	24円

13

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。

14